

GignoSystem
Japan

Information
Provider

Solution

株主通信

第12期事業の報告書

2007年4月1日～2008年3月31日

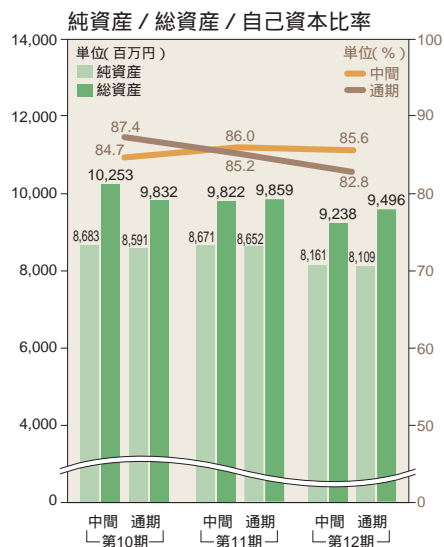
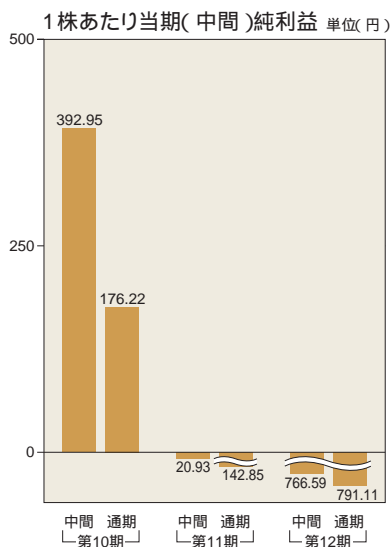
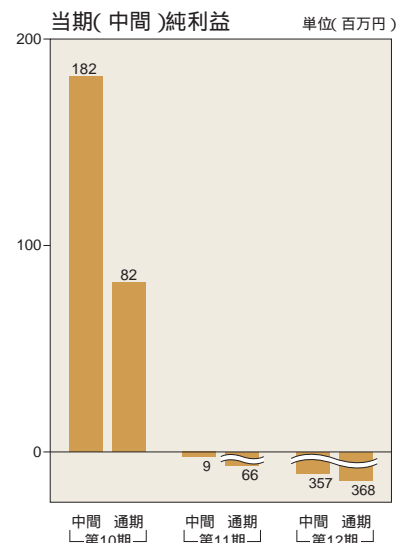
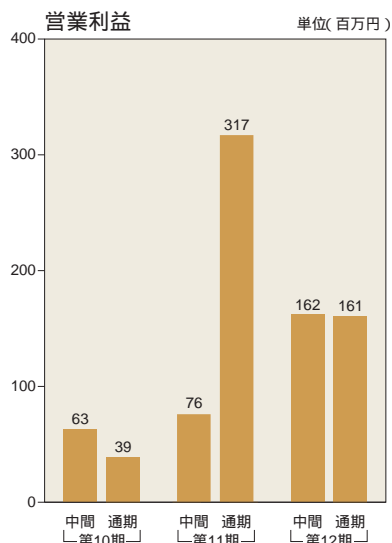
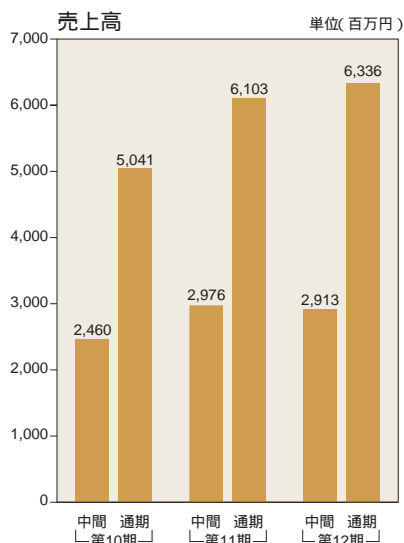
Video
&
Music

ジグノシステムジャパン株式会社

【証券コード：4300】



連結財務ハイライト





社長インタビュー



代表取締役会長兼社長 池田 実

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別なるご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

第12期の業績につきまして、ご報告させていただきます。

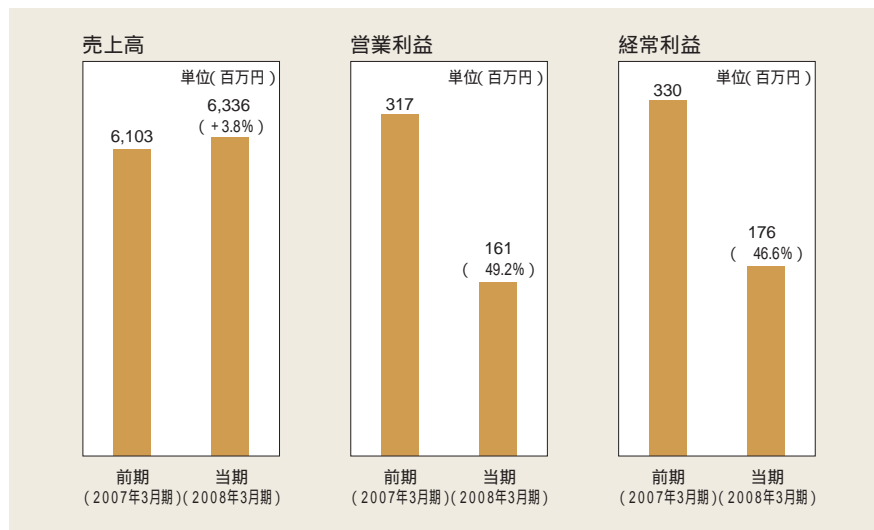
Q. 第12期の業績についてお聞かせ下さい。

第12期は、エフエム東京グループ各社と連携し、携帯電話およびPC向けインターネットコンテンツを基軸として、放送をはじめ複数のメディアと連動したサービスを企画から制作まで総合的にプロデュースするクロスメディアサービスを本格的に展開してまいりました。また、エフエム東京グループの経営資源を活用した制作基盤の拡充および業務

の合理化、コア事業への経営資源集中による事業の最適化を進めてきました。

このような取り組みの結果、連結の売上高は前期比3.8%増の63億36百万円、営業利益は前期比49.2%減の1億61百万円、経常利益は前期比46.6%減の1億76百万円、当期純損失は3億68百万円(前期は66百万円の当期純損失)となりました。

増収の主な要因としましては、当連結会計年度に当社グループに加わった(株)エフエムサウンズの貢献、インフォメーションプロバイダー事業におけるダウンロード課金を中心としたリッチコンテンツサイトの成長、ソリューション事業における事業領域の拡大が挙げられます。



一方、減益の主な要因としましては、映像・音楽制作事業において不採算事業を整理したことによる減収および整理コストの発生、ソリューション事業における先行投資によるコストの増加等が挙げられます。また、当期純損失の主な要因につきましては、特別損失としてのれん代の一部の減損損失、映画制作向けの出資金損失引当金等の計上が挙げられます。

Q. 親会社である(株)エフエム東京による公開買付けの目的と経緯についてお聞かせ下さい。

当社は2004年10月に(株)エフエム東京と資本業務提携を行い、(株)エフエム東京は当社株式の53%余りを取得し、親会社となりました。それから現在に至るまで、課金モ

デルの変化、新たなサービスの登場、フィルタリングサービスの強化等、モバイル事業を巡る環境は厳しくなっており、業界では提携や多角化など、次の一手を模索する動きが加速しています。

こうした状況において、当社はモバイル專業からの脱皮を図り、インターネット総合プロデュース企業として、携帯電話やPCといった端末にとらわれず、インターネットをシームレスに活用したサービス提供を行っていく方針を選択いたしました。

事業環境の急速な変化において、当社のさらなる成長を目指し、エフエム東京グループとともに取り組んできた放送とインターネット等を連動させたクロスメディア展開をさらに加速させるため、今回(株)エフエム東京の完全子会社



となることを決定いたしました。これにより(株)エフエム東京およびエフエム東京グループ各社の経営資源の移管がフレキシブルに行えるようになり、グループの事業連携が深まり、さらに質の高いサービスを提供できるようになります。また、経営における意思決定がスムーズになることで、新たなビジネスチャンスに迅速に対応することが可能となります。当社はエフエム東京グループ内で(株)エフエム東京とともにグループを率いる1社として位置づけられ、エフエム東京グループにおける、放送と連動した携帯電話およびPC向けインターネットコンテンツのプラットフォーム会社を目指し、クロスメディア展開を推進してまいります。

また、社内におきましてはモバイル事業本部、営業本部、

クリエイティブ本部の3本部制に体制を整え、業務の一層の効率化と事業環境の変化への対応を進めてまいります。

公開買付けには、多くの株主の皆様からご理解を賜ることができました。今後につきましては、この度の公開買付けにご賛同いただけなかった株主の皆様に対して、当社株式の売却機会を提供しつつ、当社の発行済株式の全てを(株)エフエム東京が取得することを予定しております。

Q. 株主の皆様にもメッセージをお願いいたします。

当社は1996年12月にフォトネットジャパン(株)として設立され、2002年3月に大阪証券取引所ナスダックジャパン(現ヘラクレス)市場に上場以来、株主の皆様を支えられ、成長してまいりました。しかし、経営環境の急激な変化に伴い、今後の成長戦略を考える中で、経営の意思決定の迅速化と(株)エフエム東京とのより密接な経営資源の共有を図るため、(株)エフエム東京の完全子会社となることが不可欠であるとの結論に到達いたしました。

公開買付けに際しましては、株主の皆様のこれまでのご厚意に報いる買付け価格となりますよう決めさせていただき、幸い多くの皆様のご賛同を得ることができました。株主の皆様のご理解・ご協力に対し厚く御礼申し上げます。

今後当社を、エフエム東京グループのリーディングカンパニーとして、(株)エフエム東京とともにグループを率い続ける会社へと変貌させることをお約束いたします。新しいジグノシステムジャパンの姿は、何らかの形で世の中に対し発信していきたいと思っておりますので、今後とも当社にご注目いただけると幸いです。株主の皆様のごこれまでのご支援に心より感謝申し上げます。



(株)エフエム東京による公開買付けについて

当社は、2008年3月6日開催の当社取締役会において、(株)エフエム東京による当社株券等に対する公開買付けに関して、本公開買付けを含む当社を完全子会社化するための一連の取引が、当社の今後の中長期的な企業価値の向上に資するものであることから、公開買付けに賛同いたしました。

公開買付けの内容および結果

- < 期間 > 2008年3月7日～2008年4月18日(30営業日)
- < 買付け価格 > 1株あたり16,500円
- < 結果 > 当社の発行済み株式総数(466,300株)に対する所有割合
53.61%(250,000株) 95.66%(446,060株)
- < 決済開始日 > 2008年4月28日
- < 今後の予定 >

(株)エフエム東京は、本公開買付けにより、当社が保有する自己株式を除いた当社普通株式および新株予約権の全てを取得できなかったことから、(株)エフエム東京を完全親会社、当社を完全子会社とする株式交換(なお、(株)エフエム東京は非上場で株式譲渡制限会社であることから、対価として金銭を交付する予定。)を行うことを要請し、(株)エフエム東京を除く当社の株主の皆様に対して当社株式の売却機会を提供しつつ、当社の発行済株式の全てを取得することを予定しております。

エフエム東京グループの企業価値最大化へ

放送とインターネット等を連動させた
クロスメディア展開の具現化にドライブフォースをかける

グループシナジーの強化

IPユニット

(IP=インターネット・プロトコル)
グループの成長の鍵を握る
ユニット

GignoSystem
Japan

放送ユニット

コンテンツ創造を牽引する
ユニット

 TOKYO FM
Just Me, Just 80MHz

エフエム東京グループ

事業別概況

インフォメーションプロバイダー事業

インフォメーションプロバイダー事業では、ドコモ・KDDI・ソフトバンクモバイルなどの携帯電話事業者向けに、着うた[®]、Flash[®] 待受、ゲーム、電子書籍、きせかえツール、装飾メールといったリッチコンテンツを中心に、多彩な携帯電話サービスを提供しております。

当連結会計年度においては、成長軌道にあるFlash[®] 待受、きせかえツール、電子書籍等を提供する携帯サイトの強化に注力し、一部不採算サイトを整理して重点サイトにリソースを集中することで収益力の向上に努めました。中でもきせかえサイト「セットアップ Lab」は携帯電話向けコンテンツの新たな技術トレンドであるきせかえツールをサービスとして具現化し、特定のジャンルに偏らず季節感のあるコンテンツをタイムリーに提供することでユーザーから広く支持を頂いております。また、下期を中心に男性向けデザインをメインとしたきせかえサイトや電子書籍サイトを新たに公式サイトとしてオープンし、これら成長サービスの一層の充実を図りました。

この結果、当連結会計年度の売上高は28億70百万円(前連結会計年度比5.2%減)、営業利益は6億88百万円(前連結会計年度比8.9%増)となりました。



きせかえサイト「セットアップ Lab」



ソリューション事業

ソリューション事業は、他社向け携帯サイトの企画・開発・運営委託や、画像自動変換システムのASPサービス提供、また放送とインターネット等を連携させたクロスメディアサービスを展開しております。

当連結会計年度においては、携帯サイト開発における技術力をベースに、携帯サイト・PCサイトと連動した法人向けクロスメディアプロモーション企画に注力いたしました。Webコンテンツの制作からTOKYO FMでのラジオスポットCM展開まで一括受託可能な体制をベースとして、顧客のターゲット、ニーズに即した効果的なマーケティング提案に取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は9億38百万円(前連結会計年度比59.1%増)、営業利益54百万円(前連結会計年度比44.6%減)となりました。

映像・音楽制作事業

映像・音楽制作事業は、CM音楽制作会社である(株)サーティース、テレビCM等の映像制作会社である(株)ネクサスフィルムズと(株)オニオン、2007年12月に子会社化したラジオ放送番組制作会社である(株)エフエムサウンズの4社により事業を展開しております。

当連結会計年度においては、(株)オニオンは順調に業績を伸ばした一方、(株)サーティースにおいては主力のCM音楽企画制作は堅調であったものの、新規事業への先行投資が回収できなかったことおよび同子会社である(株)ネクサスフィルムズの不振により減収減益となりました。

こうした各社ばらつきのある業績状況から脱却すべく、不採算事業の整理、固定コストの削減、グループ再編を含む相互協力体制の強化をはかり、安定した収益構造へ転換を目指しております。

この結果、当連結会計年度の売上高は24億85百万円(前連結会計年度比14.2%増)、営業損失は1億11百万円(前連結会計年度は営業利益95百万円)となりました。



連結財務諸表

連結貸借対照表

単位:千円	第11期 (2007年3月31日現在)	第12期 (2008年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	7,414,433	7,995,089
現金及び預金	5,479,314	5,983,785
受取手形及び売掛金	1,606,100	1,639,940
たな卸資産	49,359	154,378
繰延税金資産	22,580	28,105
その他	264,504	198,895
貸倒引当金	7,425	10,015
固定資産	2,444,638	1,501,002
有形固定資産	301,239	249,762
建物	112,036	99,720
器具及び備品	176,504	138,270
その他	12,698	11,770
無形固定資産	410,280	92,080 *1
投資その他の資産	1,733,117	1,159,159
投資有価証券	428,108	366,738
長期性預金	1,000,000	500,000
その他	305,009	292,421
資産合計	9,859,072	9,496,092
(負債の部)		
流動負債	1,173,540	1,354,147
買掛金	768,776	786,730
短期借入金		50,000
一年以内返済予定長期借入金	31,906	23,098
未払法人税等	59,237	131,337
賞与引当金	27,312	38,062
繰延税金負債	10,696	8,562
その他	275,611	316,358
固定負債	32,792	32,935
長期借入金	23,098	
その他	9,694	32,935
負債合計	1,206,333	1,387,082
(純資産の部)		
株主資本	8,378,313	7,849,561
資本金	3,345,562	3,345,562
資本剰余金	3,272,720	3,272,720
利益剰余金	1,760,029	1,251,793 *1
自己株式		20,515
評価・換算差額等	25,973	12,650
その他有価証券評価差額金	6,879	997
為替換算調整勘定	19,093	13,648
少数株主持分	248,452	246,797
純資産合計	8,652,739	8,109,009
負債純資産合計	9,859,072	9,496,092

連結損益計算書

単位:千円	第11期 (2006年4月1日～2007年3月31日)	第12期 (2007年4月1日～2008年3月31日)
売上高	6,103,744	6,336,987
売上原価	4,129,972	4,533,973
売上総利益	1,973,771	1,803,013
販売費及び一般管理費	1,655,819	1,641,400
営業利益	317,952	161,612
営業外収益	23,769	38,494
受取利息	12,545	23,536
受取配当金	3,457	2,020
その他営業外収益	7,767	12,938
営業外費用	11,194	23,441
株式交付費	31	
その他営業外費用	11,163	23,441
経常利益	330,526	176,666
特別利益		23,713
投資有価証券売却益		13,000
その他の特別利益		10,713
特別損失	176,501	447,135
固定資産除却損	3,885	6,585
減損損失	70,000	323,959
その他の特別損失	102,616	116,591
税金等調整前当期純利益又は純損失(:損失)	154,025	246,754
法人税、住民税及び事業税	151,504	192,824
法人税等調整額	25,968	19,709
少数株主利益又は損失(:損失)	43,157	51,524
当期純損失	66,604	368,346

解説

連結貸借対照表

*1：中間期にのれん代の一部、323百万円を一括償却したことにより、減少

連結株主資本等変動計算書 (2007年4月1日～2008年3月31日)

単位:千円	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2007年3月31日残高	3,345,562	3,272,720	1,760,029		8,378,313	6,879	19,093	25,973	248,452	8,652,739
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			139,890		139,890					139,890
当期純利益又は損失()			368,346		368,346					368,346
自己株式の取得				20,515	20,515					20,515
株主資本以外の項目の										
連結会計年度中の変動額(純額)						7,877	5,445	13,323	1,654	14,977
連結会計年度中の変動額合計			508,236	20,515	528,751	7,877	5,445	13,323	1,654	543,729
2008年3月31日残高	3,345,562	3,272,720	1,251,793	20,515	7,849,561	997	13,648	12,650	246,797	8,109,009

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:千円	第11期	第12期
	(2006年4月1日～2007年3月31日)	(2007年4月1日～2008年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	359,432	170,153 *2
投資活動によるキャッシュ・フロー	689,542	509,621 *3
財務活動によるキャッシュ・フロー	168,374	192,100 *4
現金及び現金同等物に係る換算差額	8,805	2,619
現金及び現金同等物の増減額	489,678	485,054
現金及び現金同等物の期首残高	5,168,993	4,679,314
現金及び現金同等物の期末残高	4,679,314	5,164,368

解説

連結キャッシュ・フロー計算書

- *2: 税金等調整前当期純損失計上による支出2億46百万円、法人税等の支払による支出1億13百万円、減損損失計上による収入3億23百万円、減価償却費計上による収入1億8百万円、出資金損失引当金増加による収入1億3百万円
- *3: 定期預金払戻による収入5億円、投資有価証券売却による収入1億13百万円
- *4: 配当金支払いによる支出1億39百万円、長期借入金返済による支出31百万円、自己株式取得による支出20百万円



個別財務諸表

個別貸借対照表

単位:千円	第11期 (2007年3月31日現在)	第12期 (2008年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	6,492,533	6,971,939
現金及び預金	5,172,557	5,612,263
売掛金	940,361	1,050,540
商品	4,046	
仕掛品	575	100
前渡金	133,790	44,152
前払費用	22,817	68,114
繰延税金資産	21,792	25,488
関係会社貸付金	187,499	172,499
その他	14,535	4,775
貸倒引当金	5,442	5,995
固定資産	2,637,073	1,709,620
有形固定資産	189,268	153,330
建物	33,525	29,558
器具及び備品	155,743	123,772
無形固定資産	37,364	45,793
投資その他の資産	2,410,439	1,510,495
投資有価証券	428,108	352,551
関係会社株式	728,879	434,679
長期性預金	1,000,000	500,000
その他	253,452	223,265
資産合計	9,129,607	8,681,560
(負債の部)		
流動負債	646,551	792,649
買掛金	427,065	443,028
未払法人税等	9,873	120,194
賞与引当金	26,669	29,351
その他	182,944	200,076
負債合計	646,551	792,649
(純資産の部)		
株主資本	8,476,176	7,888,551
資本金	3,345,562	3,345,562
資本剰余金	3,272,720	3,272,720
利益剰余金	1,857,893	1,290,784
自己株式		20,515
評価・換算差額等	6,879	359
その他有価証券評価差額金	6,879	359
純資産合計	8,483,056	7,888,911
負債純資産合計	9,129,607	8,681,560

個別損益計算書

単位:千円	第11期 (2006年4月1日 - 2007年3月31日)	第12期 (2007年4月1日 - 2008年3月31日)
売上高	3,688,448	3,654,524
売上原価	2,291,462	2,229,447
売上総利益	1,396,985	1,425,076
販売費及び一般管理費	1,145,890	1,163,170
営業利益	251,095	261,905
営業外収益	29,487	33,270
営業外費用	6,928	18,886
経常利益	273,655	276,289
特別利益		23,025
特別損失	459,398	582,343
税引前当期純損失	185,743	283,027
法人税、住民税及び事業税	103,287	159,358
法人税等調整額	6,868	15,166
当期純損失	282,162	427,219

個別株主資本等変動計算書 (2007年4月1日～2008年3月31日)

単位:千円	株主資本							評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金		評価・換算 差額等合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計					
2007年3月31日残高	3,345,562	2,972,720	300,000	3,272,720	1,857,893	1,857,893		8,476,176	6,879	6,879	8,483,056
事業年度中の変動額											
剰余金の配当					139,890	139,890		139,890			139,890
当期純利益又は損失()					427,219	427,219		427,219			427,219
自己株式の取得							20,515	20,515			20,515
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)									6,520	6,520	6,520
事業年度中の変動額合計					567,109	567,109	20,515	587,624	6,520	6,520	594,145
2008年3月31日残高	3,345,562	2,972,720	300,000	3,272,720	1,290,784	1,290,784	20,515	7,888,551	359	359	7,888,911

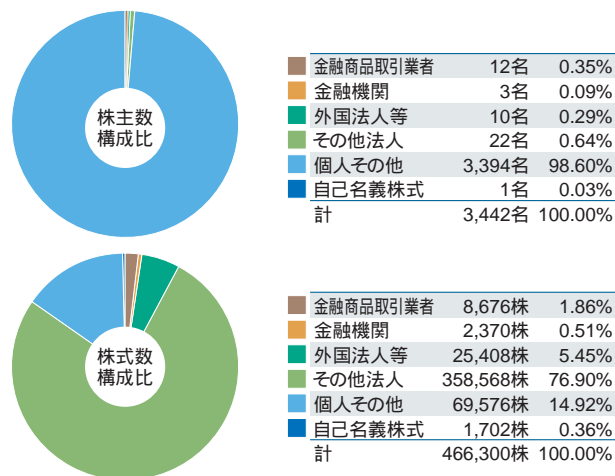
株式の状況 (2008年3月31日現在)

発行可能株式総数	1,316,000株
発行済株式の総数	466,300株
株主数	3,442名

大株主 (2008年3月31日現在)

株主名	持ち株数	議決権比率
株式会社エフエム東京	250,000	53.81%
株式会社プラザクリエイト	97,301	20.94%
バンクオブニューヨークGCMクライアントアカウント JPRD ISG(FE-AC)	10,806	2.32%
保本 節夫	10,087	2.17%
株式会社リコー	9,000	1.93%
UBSAG ロンドンアカウント IPB セグレイテッドクライアントアカウント	7,439	1.60%
ジョインベスト証券株式会社	7,020	1.51%
ゴールドマンサックスインターナショナル	5,025	1.08%

株式分布状況 (2008年3月31日現在)



会社概要

(2008年3月31日現在)

設立	1996年12月
資本金	3,345,562,872円
所在地	東京都千代田区麹町1丁目12番地
事業内容	インフォメーションプロバイダー事業(国内・海外) ソリューション事業 映像・音楽制作事業
人数	(単体)113名(役員・社員・契約社員・派遣社員) (連結)215名(役員・社員・契約社員・派遣社員)
連結子会社	株式会社サーティース(子会社:株式会社ネクサスフィルムス) 株式会社オニオン 株式会社エフエムサウンズ 株式会社ユナイテッド・ワールド・ミュージック ジグノシステムヨーロッパ(欧州子会社) ジグノエンタテインメント(米国子会社)

取締役及び監査役(2008年6月26日現在)

代表取締役会長兼社長	池田 実
取締役副社長	西川 守
常務取締役	吉浜 直人
取締役	大橋 明夫
取締役	唐島 夏生
取締役	山田 伸二
常勤監査役	佐藤 敬忠
監査役	近藤 恵
監査役	佐藤 りえ子
監査役	金井 賢治

<http://www.gignosystem.com/>



当社のホームページは株主・投資家の皆様に対して、企業情報、IR情報をはじめとした、積極的な情報開示を行っております。

GignoSystem
Japan

ジグノシステムジャパン株式会社

株主メモ

事業年度……………4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会……………毎年6月

基準日

定時株主総会……………3月31日

期末配当金……………3月31日

中間配当金……………9月30日

株主名簿管理人……………三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所……………東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(同送付先)……………〒137 8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120 - 232 - 711(通話料無料)

同取次所……………三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

公告の方法……………電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。

公告掲載 URL……………<http://www.gignosystem.com/>

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料) 0120 - 244 - 479(本店証券代行部)

0120 - 684 - 479(大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufig.jp/daikou/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会下さい。



環境に優しい植物性大豆インキを使用しております。